

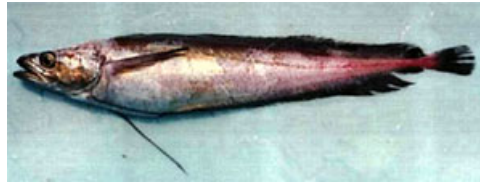
平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 イトヒキダラ

学名 *Laemonema longipes*

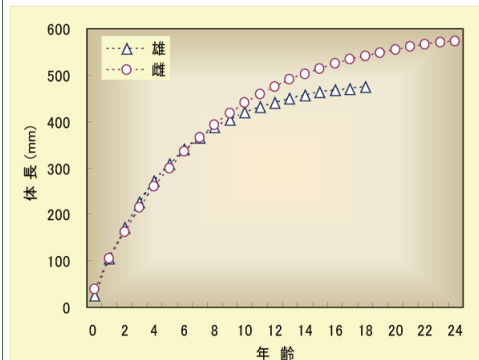
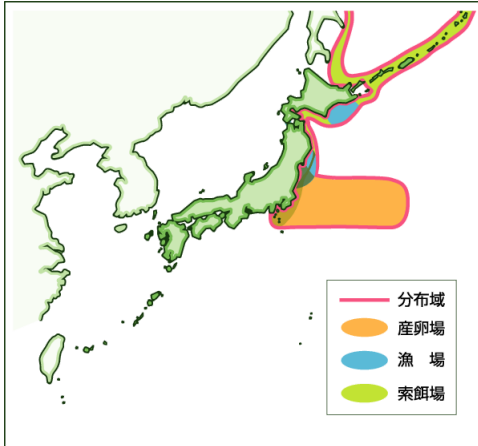
系群名 太平洋系群

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雄18歳、雌24歳程度
成熟開始年齢: 雄5歳、雌7歳程度
産卵期・産卵場: 2～4月、本州関東・東北南部沿岸～本州東方の沖合域
索餌期・索餌場: 周年、本州関東沿岸以北の陸棚斜面域(水深300～1,500m)
食性: オキアミ類や橈脚類などの甲殻類およびハダカイワシ科魚類など
捕食者: ムネダラなどの大型ソコダラ類やオットセイ、マッコウクジラ、ツチクジラなどの海産哺乳類

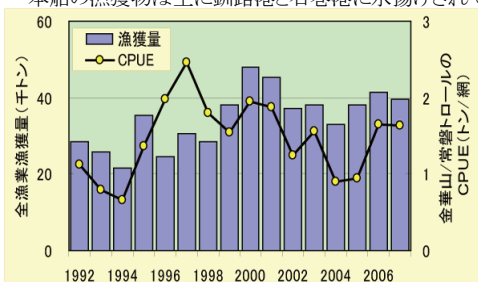


漁業の特徴

本種は1990年代以降に主対象魚として漁獲されるようになり、主に沖合底びき網漁業によって漁獲されている。スケトウダラの代替で練り製品の原料として利用されており、漁獲圧はスケトウダラやその他魚類の漁獲状況によって変化する。また、ロシアに対し日本水域内における漁獲量が割り当てられており、近年はロシア船による漁獲量が増加し、日本船の漁獲量よりも多い。

漁獲の動向

近年の日ロ両国の漁船による漁獲量は1992年が29千トン、1993年が26千トン、1994年が22千トンと徐々に減少した。その後増加し、1995年には35千トンとなり、2000年には48千トンと過去最高を記録した。その後、2004年には33千トン、2005年には38千トン、2006年には41千トンとなっており、2007年には暫定値ながら39千トンとなっている。日本船の漁獲物は主に釧路港と石巻港に水揚げされているが、近年釧路港への水揚げは減少している。

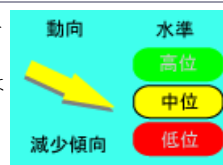
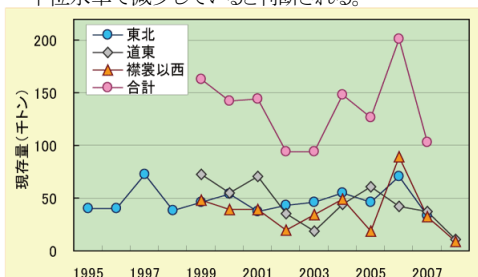


資源評価法

東北および北海道の太平洋側の陸棚斜面域において、主な分布水深帯である水深350～900mで実施した着底トロール調査の結果を基に、面積密度法により現存量を算出した。イトヒキダラは海底から離れた水域にも分布することから、着底トロール調査で得られた現存量は、資源量の指標値として用いた。

資源状態

トロール調査の結果、2007年の東北と北海道太平洋岸の現存量は過去9年間で6番目に多かったが、2008年の北海道太平洋岸の現存量は非常に少なかった。また、最近5年間のロシア船のCPUEは東北海域では横ばい傾向、北海道では増加傾向にあると考えられ、東北海域の沖合底びき網漁業のCPUEは比較的安定している。これらを総合すると資源は中位水準で減少していると判断される。



管理方策

資源は複数年に一度発生する加入により支えられている。成長が遅く比較的長寿であるため、一度親魚が減少すると回復が困難であることから、親魚量の維持を管理目標とした。北海道および東北太平洋岸で行っているトロール調査から現存量を推定し、その現存量の変動から変化率をもとめ、変化率に過去5年間の平均漁獲量を乗じてABCを算出した。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	32千トン	0.84Cave5-yr	—	—
ABCtarget	25千トン	0.8・0.84Cave5-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は減少傾向にある
- 若齢魚の発生には大きな年変化がある
- 資源状態は比較的安定していたが、2007～2008年にかけて減少が見られる

管理方策のまとめ

- 成長が遅く、成熟年齢も比較的高齢であるため、親魚量を維持する必要がある
- 若齢魚を含めた今後の資源動向を注視することが必要

資源評価は毎年更新されます。